一般質問

「住みよさランキング２０２６」について



髙瀬　重嗣 議員

質問：政治家は、結果が悪い時はその責任を取り、政策を変えるなり、何か工夫していかなければいけない。知恵を絞ってあらゆる施策を展開する時期に、相馬市政が取ってきた財政健全化という名の緊縮財政、給食費補助の廃止と国の施策頼みの子育て政策、「やらない」ということをやった結果、県北唯一の百貨店だった東武宇都宮百貨店は８月31日で閉店した。出生数は前年の４分の３、住みよさランキングは令和３年の２７７位から見ると、なんと３７６番も順番を落とし過去最低の６５３位。大田原市より住みよくない市は１６１市しかない。市長の見解を求めます。

答弁：東武百貨店の閉店については、私の在任中ということで大変残念な結果ではあるが、市政が関係していることではないので、一つの会社が英断をしたということだ。出生数の低下は全国的な問題ということで国になんらかの施策を展開してもらいたいと思っています。

質問：市としてやることはないのか伺います。

答弁：いろんな話を聞きながら、政策を決めて実行していきたいと考えています。

栃木県におけるプロフェッショナルスポーツ団体及び本市ゆかりの相撲部屋に対する支援及び連携・協力協定について



中川　雅之 議員

質問：本市ゆかりの相撲部屋（二子山部屋等）に対する支援及び連携・協力協定について本市の考えを伺います。

答弁：二子山部屋においては、現在本市出身の力士が５名在籍し、厳しい勝負の世界に身を置き、日々鍛錬に励みながら、大相撲の舞台で活躍しています。その姿は、市民に大きな感動や勇気を与えるものであり、大変誇らしく感じています。また、こうした縁を背景とし、本市出身力士を中心とした相撲教室が開催できることは、子供たちの健全育成や相撲競技の普及・振興、さらには地域に根差したスポーツ文化の醸成にも大きく寄与していると認識しており、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。二子山部屋や本市ゆかりの力士は、子供たちに夢や希望を与えてくれる貴重な存在であり、市にとって大切な人的資源であると認識しています。相撲教室等を通じて、これまで築かれてきた温かい人的なつながりや絆を大切にしながら、子供たちのスポーツ体験の機会づくりや広報媒体を活用した、市ゆかりの力士の応援、情報発信など、今できる形での連携協力を進めます。